



朝来市観光動態調査報告会

～2015年／2017年における変化と仮説について～

2018年 3月5日(月)



株式会社リクルートライフスタイル
じゃらんリサーチセンター
朝来地域エリアプロデューサー

田中 優子



・ 動態調査の背景と事前の仮説	3 P	【時間帯別流入出分析】	
・ 結論：比較結果の全体概要	4 P	・ 「全体」	2 4 P
・ ご報告書の見方	5 P	・ 「日帰り・休前日」	2 5 P
【地域別分析】		・ 「日帰り・休日」	2 6 P
・ 「性年齢層別構成比」	7 P	・ 「域内泊あり・休前日」	2 7 P
・ 「旅程別構成比」	8 P	・ 「域内泊あり・休日」	2 8 P
・ 「来訪者数構成比」	9 P	・ 「域外泊のみ・休前日」	2 9 P
・ 「性年齢層別構成比」	1 0 P	・ 「域外泊のみ・休日」	3 0 P
・ 「旅程別構成比」	1 1 P	【周遊分析】	
・ 「来訪者数構成比」	1 2 P	・ 「性年齢層別 平均周遊箇所数」	3 2 P
【旅程分析】		・ 「旅程別 平均周遊箇所数」	3 3 P
・ 「性年齢層別構成比」	1 4 P	・ 「観光エリア来訪者 周遊ルートランキング」	3 4 P
【宿泊地分析】		【ご提案】	
・ 「宿泊人泊数構成比」	1 6 P	調査結果を元に今後のご提案	3 5 P
・ 「性年齢層別宿泊人泊数構成比」	1 7 P		
【滞在時間分析】			
・ 「性年齢層別滞在時間」	1 9 P		
・ 「旅程・カレンダー別滞在時間」	2 0 P		
・ 「性年齢層別来訪者数」	2 1 P		
・ 「性年齢層別滞在時間 (スポット毎詳細)」	2 2 P		

<本調査の背景>

- 主として、「現在、朝来市に訪れる観光客の動態情報」を把握することで、
- ・朝来市DMOのより効果的／効率的な活動
 - ・同市の観光戦略の策定
- に寄与することを目的とする。

<環境変化による、動態の変化と仮説>

- ・2017年3月25日に、『北近畿豊岡自動車道 八鹿日高道路』が開通。
- ・城崎温泉、出石、香住など、但馬の主要観光地へ行く際に、
「かつては和田山ICで降りていた観光客」が、より近くて便利な「日高神鍋IC」で降りる可能性が高くなる。
- ・この環境の変化に伴い、観光客の動きはどう変わったか、朝来市の来訪者数やスポット等の周遊情報を動態の変化でひも解く。

→仮説として「来訪者の減少」「域内周遊の減少」（朝来エリアのスルー化）が考えられる。

<本調査の活用イメージ>

- まず環境の変化に伴う「現状」を正しく把握する。そのうえでデータを基に
- ①今後朝来市が目指す**ターゲットプロフィール**（今一番来訪してる年代・滞在期間の長い層）
 - ②**他エリアとの連携**をどのように強化するか？（例：養父市・豊岡市・姫路市などとの連携）
 - ③「立ち寄り」ではなく「**目的地**」として**存在する**ためにどうしていくべきか？
- などを考える。

■ 高速道路開通の影響は特定地域に顕著。

<高速道路の開通による影響>

- ・特に豊岡市の観光客は高速ができたため、下道を走らずに、高速経由で「そのまま通過している」可能性があります。その影響で、立ち寄り利用も減少する傾向が散見されます。

■ 地域外滞在先エリアの変化や地域資源の魅力の変化も。

<城崎温泉から養父市・新温泉町へ 竹田城から生野銀山への変化か？>

- ・日高神鍋IC開通により、豊岡市から、養父市・新温泉町へ滞在先の変化がみられます。
 - ・一方で竹田城はかつての勢いを感じる数値になっておらず、「魅力の言語化」「飽きさせない工夫」「何度も来たくなる仕掛け」など、テコ入れの必要性を感じます。
- 例えば、雲海の影響か、観光客のアクションは早朝になっている傾向がありますが「そのまま帰る=滞在時間が短い」状況であるため、とどまる目的・理由を作る必要があります。
- ・生野銀山と、道の駅まほろばの来訪者が少し伸びている傾向にあります。

■ 社会的要因による変動をいかにキャッチするか？

<安価なバスツアーの利用者減> → 遠方からの来訪者が減少

- ・2015年、2016年にかけては、軽井沢スキーバス転落事故など、比較的安価を売りにしたバスツアーでの事故が目立った（注目された）年でもあります。この影響で、バス旅行全体に動きが停滞した可能性があります。

<若年層のお出かけを後押し> → 若者の来訪の減少

- ・2015年は、google社が「音声検索機能（OK！google）」をPRしたCMで、“思いついたら即出かけてみる”ことを促しました。情報感度の高い若い世代が動いた可能性が高く、生活に浸透したインフラ（スマホ）が行動に影響する可能性を示唆しています。

分析の分類が上部に明記されています。

■地域別分析 「性年齢層別構成比」

<比較における注視ポイント>

- ・男性/35-49歳、50歳以上の比率が、2017年の方が高くなっている。(その分女性/35-49歳の比率が減少している)
- ・中国地方の比率が2017年の方が高くなっている。(女性35-49歳は除く)
- ・首都圏/女性/10-34歳、35-49歳の比率が、2017年の方が低くなっている。

2015年と2017年の比較内容が明記されています。

2015年と2017年の調査結果の表が縦／または横に並んで表示されます。

可読性を考慮し2015年 ■ 2017年 ■ の色帯を配置しています。

【性年齢層別 構成比】

順位	発地地域	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	3,181	19.1%	13.7%	17.9%	15.5%	15.7%	18.2%
1	近畿	2,703	19.5%	13.9%	17.4%	15.3%	15.7%	18.1%
2	中国	127	20.3%	15.0%	20.4%	****	26.1%	****
3	東海	114	19.2%	****	24.9%	****	11.8%	32.5%
4	首都圏	93	****	****	18.7%	21.7%	20.9%	13.4%
5	甲信越・北陸	79	21.0%	****	14.6%	38.3%	****	****
-	その他	66	****	****	21.8%	****	****	****

<変化の要因(仮説)>

変化の考えられる要因(仮説含む)を明記しています。
※仮説であるため、事実と異なる可能性もあります。

【性年齢層別 構成比】

順位	発地地域	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	2,819	16.7%	16.4%	20.7%	14.3%	12.8%	19.0%
1	近畿	2,486	17.0%	16.2%	19.9%	14.8%	13.2%	18.9%
2	中国	122	17.1%	15.6%	28.7%	14.5%	9.9%	14.2%
3	東海	59	****	****	25.4%	****	****	23.0%
4	首都圏	55	****	21.0%	22.4%	****	****	20.6%
5	甲信越・北陸	28	****	****	****	****	****	****
-	その他	69	****	20.1%	****	****	****	****

© RECRUIT LIFESTYLE CO., LTD.

CONFIDENTIAL

7

変わる地域の、力になります。



【地域別分析】

<比較における注視ポイント>

- ・ 2015年と2017年を比較すると全体来訪者数が減っている 約88.6%
 - ・ 男性/35-49歳、50歳以上の比率と女性/50歳以上の比率が、2017年の方が高くなっている。
(その分、男性10~34歳、女性/10-34歳、35-49歳が減少している)
 - ・ 首都圏/女性/10-34歳、35-49歳の比率が、2017年の方がゼロになっている (秘匿処理対象)
- 全体来訪者数の減少傾向 (男性女性共に10-34歳・女性の減少傾向・首都圏・東海・北陸からの来訪が減少傾向)

【性年齢層別 構成比】

順位	発地地域	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	3,181	19.1%	13.7%	17.9%	15.5%	15.7%	18.2%
1	近畿	2,703	19.5%	13.9%	17.4%	15.3%	15.7%	18.1%
2	中国	127	20.3%	15.0%	20.4%	****	26.1%	****
3	東海	114	19.2%	****	24.9%	****	11.8%	32.5%
4	首都圏	93	****	****	18.7%	21.7%	20.9%	13.4%
5	甲信越・北陸	79	21.0%	****	14.6%	38.3%	****	****
-	その他	66	****	****	21.8%	****	****	****

【性年齢層別 構成比】

順位	発地地域	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	2,819	16.7%	16.4%	20.7%	14.3%	12.8%	19.0%
1	近畿	2,486	17.0%	16.2%	19.9%	14.8%	13.2%	18.9%
2	中国	122	17.1%	15.6%	28.7%	14.5%	9.9%	14.2%
3	東海	59	****	****	25.4%	****	****	23.0%
4	首都圏	55	****	21.0%	22.4%	****	****	20.6%
5	甲信越・北陸	28	****	****	****	****	****	****
-	その他	69	****	20.1%	****	****	****	****

<変化の要因 (仮説) >

- ・ 働き方改革の浸透などで、男性の旅行者が増えている可能性がある。
(※じゃらん宿泊旅行調査でも男性一人旅は増えている傾向)
- ・ 2017年4月28日に日本遺産の認定を受けたこともあり男女共に50歳以上の旅行者が増えている可能性がある
- ・ 一時的な竹田城ブームで動いた可能性のある10~34歳の旅行者が、減少傾向
- ・ 首都圏・東海・北陸など遠方からの竹田城跡見学目的のバスツアーが減少している可能性がある

<比較における注視ポイント>

- ・ 日帰り／近畿、中国エリアの比率が2017年で高くなっている。
- ・ 域外1泊／東海、首都圏、甲信越北陸、の比率は2017年で低くなっている。
- ・ 域外2泊～3泊以上については、甲信越北陸、その他の比率が2017年で低くなっている。

【旅程別 構成比】

順位	発地地域	来訪者数	日帰り	域内1泊	域外1泊	1泊宿泊地不明	域内2泊	域外2泊	域内外各1泊	2泊宿泊地不明	3泊以上
-	全体	3,181	57.5%	3.5%	19.0%	3.7%	1.0%	6.9%	0.7%	1.0%	6.7%
1	近畿	2,703	66.2%	3.1%	17.1%	3.7%	0.7%	4.7%	0.6%	0.9%	3.0%
2	中国	127	17.6%	10.1%	35.3%	****	****	12.2%	****	****	15.8%
3	東海	114	****	****	40.3%	****	****	14.5%	****	****	22.8%
4	首都圏	93	****	****	19.5%	****	****	25.3%	****	****	48.4%
5	甲信越・北陸	79	****	****	15.8%	****	****	20.3%	****	****	39.8%
-	その他	66	****	****	30.9%	****	****	30.5%	****	****	16.7%

【旅程別 構成比】

順位	発地地域	来訪者数	日帰り	域内1泊	域外1泊	1泊宿泊地不明	域内2泊	域外2泊	域内外各1泊	2泊宿泊地不明	3泊以上
-	全体	2,819	65.0%	5.1%	14.6%	0.6%	1.3%	5.3%	0.8%	0.5%	6.7%
1	近畿	2,486	71.2%	5.1%	13.2%	****	1.3%	3.8%	****	****	3.7%
2	中国	122	38.2%	****	30.0%	****	****	****	****	****	12.5%
3	東海	59	****	****	29.3%	****	****	18.5%	****	****	24.2%
4	首都圏	55	****	****	****	****	****	25.7%	****	****	49.2%
5	甲信越・北陸	28	****	****	****	****	****	****	****	****	****
-	その他	69	****	****	****	****	****	****	****	****	****

<変化の要因（仮説）>

- ・ 高速道路の開通に伴い、日帰り客全般は高くなっていると考えられる。
 - ・ 東海地区においては2015年から10pt以上下がってる。要因として過去、東海から安いバスツアー等があった可能性大。
- ※しかし、昨今のバス運転手による過失事故の多発などで安価なバスツアーがなくなった。
 ※結果として東海地区に関しては、この要因が大きいと考えられる。

<比較における注視ポイント>

- ・ 2017年来訪地域TOP3 (兵庫県61.9%・大阪府・京都府) エリアは変更なし。
 - ・ その比率、割合も変更ナシ。
 - ・ 2017年は、4位以降の来訪地域に変動がある。
- ※人数は少数であるが、エリアに変化が見て取れる (滋賀、広島、東京のランクIN、神奈川、福井、千葉のOUT)

【来訪者数・構成比】

順位	発地都道府県	来訪者数	構成比
1	兵庫県	1,969	61.9%
2	大阪府	408	12.8%
3	京都府	265	8.3%
4	愛知県	70	2.2%
5	岡山県	54	1.7%
6	神奈川県	35	1.1%
7	福井県	35	1.1%
8	鳥取県	29	0.9%
9	奈良県	29	0.9%
10	千葉県	23	0.7%
-	その他	264	8.3%
-	合計	3,181	100.0%

【来訪者数・構成比】

順位	発地都道府県	来訪者数	構成比
1	兵庫県	1,746	61.9%
2	大阪府	401	14.2%
3	京都府	261	9.3%
4	岡山県	54	1.9%
5	奈良県	39	1.4%
6	愛知県	35	1.2%
7	鳥取県	29	1.0%
8	滋賀県	24	0.9%
9	広島県	23	0.8%
10	東京都	19	0.7%
-	その他	188	6.7%
-	合計	2,819	100.0%

<変化の要因 (仮説) >

- ・ 兵庫・大阪・京都に変化はない。次いで2017年は中国・近畿エリアが上がってきている傾向
- 遠方エリアが下がっているのはバスツアーの減少の可能性が高い
- こちらにおいては、高速道路開通の因果関係は薄いと考えられる。

<比較における注視点>

- ・ **女性/全年代において、減少傾向** 少数人数の発地エリアの比率がゼロ（秘匿処理対象）となっている。

【性年齢層別 構成比】

順位	発地都道府県	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	3,181	19.1%	13.7%	17.9%	15.5%	15.7%	18.2%
1	兵庫県	1,969	19.4%	12.2%	18.1%	17.0%	16.3%	17.1%
2	大阪府	408	18.0%	19.6%	17.1%	12.2%	13.6%	19.6%
3	京都府	265	25.0%	16.3%	****	****	16.4%	23.2%
4	愛知県	70	17.3%	16.5%	29.4%	****	****	27.5%
5	岡山県	54	32.4%	****	****	****	23.8%	****
-	その他	415	13.9%	****	23.0%	18.1%	****	****

【性年齢層別 構成比】

順位	発地都道府県	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	2,819	16.7%	16.4%	20.7%	14.3%	12.8%	19.0%
1	兵庫県	1,746	18.1%	15.4%	19.7%	14.7%	13.7%	18.5%
2	大阪府	401	14.8%	18.6%	20.8%	13.1%	12.6%	20.1%
3	京都府	261	13.5%	18.1%	18.7%	20.3%	12.4%	16.9%
4	岡山県	54	****	20.2%	27.9%	****	****	****
5	奈良県	39	****	****	****	****	****	****
-	その他	318	14.0%	****	****	****	9.7%	****

<変化の要因（仮説）>

- ・ 2017年は主として女性は関西エリアからしかアクションしていない。（しかも10-34・35-49は減少傾向）
→わざわざ遠くまで行く価値を、朝来エリアに感じてもらえていない可能性がある。
- ※竹田城の認知向上に伴い、情報価値が減少？（SNSなどへの情報流出で「行かなくても大体わかる」状況に。
または、再来訪者が少ない、リピートする価値を見いだせていない？ などが要因か。

<比較における注視ポイント>

- ・「発地都道府県」は2017年もTOP3（兵庫県・大阪府・京都府）は同様。
4位5位が変動。（2015年＝順に愛知、岡山。2017年＝順に岡山、奈良）
- ・大阪府／域内泊が2017年は増加傾向
- ・大阪府／1泊宿泊地不明が2017年はゼロ（秘匿処理対象）となっている。
- ・岡山県／3泊以上が2017年はゼロ（秘匿処理対象）となっている。
- ・その他／域外2泊の比率が2017年はゼロ（秘匿処理対象）となっている。

【旅程別 構成比】

順位	発地都道府県	来訪者数	日帰り	域内1泊	域外1泊	1泊宿泊地不明	域内2泊	域外2泊	域内外各1泊	2泊宿泊地不明	3泊以上
-	全体	3,181	57.5%	3.5%	19.0%	3.7%	1.0%	6.9%	0.7%	1.0%	6.7%
1	兵庫県	1,969	71.2%	2.7%	16.4%	3.3%	0.8%	3.1%	****	****	1.6%
2	大阪府	408	44.6%	5.1%	24.4%	4.8%	****	8.6%	****	****	8.4%
3	京都府	265	73.1%	****	7.9%	****	****	5.1%	****	****	4.8%
4	愛知県	70	****	****	36.9%	****	****	****	****	****	23.1%
5	岡山県	54	20.5%	****	31.5%	****	****	****	****	****	****
-	その他	415	****	5.6%	28.2%	3.3%	****	23.5%	****	****	****

【旅程別 構成比】

順位	発地都道府県	来訪者数	日帰り	域内1泊	域外1泊	1泊宿泊地不明	域内2泊	域外2泊	域内外各1泊	2泊宿泊地不明	3泊以上
-	全体	2,819	65.0%	5.1%	14.6%	0.6%	1.3%	5.3%	0.8%	0.5%	6.7%
1	兵庫県	1,746	77.4%	4.2%	11.2%	****	1.0%	2.9%	****	****	2.2%
2	大阪府	401	45.5%	11.1%	22.5%	****	****	7.5%	****	****	8.3%
3	京都府	261	78.2%	****	9.3%	****	****	****	****	****	4.0%
4	岡山県	54	38.8%	****	32.1%	****	****	****	****	****	****
5	奈良県	39	45.3%	****	29.1%	****	****	****	****	****	****
-	その他	318	17.6%	4.9%	23.1%	****	****	****	****	****	****

<変化の要因（仮説）>

- ・ 特になし。
- この分析項目に関しては、全体の傾向として、類似点が多いため、要因発生による差異と考えにくい。

<比較における注視ポイント>

- ・ TOP3の順位が変動している。(2015年=順に豊岡、神戸、姫路。2017年=順に姫路、豊岡、神戸)
 - ・ 2017年では、第一位の来訪者数が、減少している。(2位3位との差が少なくなっている)
- 豊岡市からの来訪減少が顕著

【来訪者数・構成比】

順位	発地市区町村	発地都道府県	来訪者数	構成比
1	豊岡市	兵庫県	402	12.6%
2	神戸市	兵庫県	248	7.8%
3	姫路市	兵庫県	248	7.8%
4	丹波市	兵庫県	135	4.3%
5	加古川市	兵庫県	131	4.1%
6	大阪市	大阪府	123	3.9%
7	福知山市	京都府	117	3.7%
8	養父市	兵庫県	108	3.4%
9	明石市	兵庫県	77	2.4%
10	宍粟市	兵庫県	61	1.9%
11	西宮市	兵庫県	60	1.9%
12	美方郡香美町	兵庫県	59	1.9%
13	尼崎市	兵庫県	52	1.6%
14	神崎郡福崎町	兵庫県	48	1.5%
15	豊中市	大阪府	46	1.4%
16	京都市	京都府	46	1.4%
17	三木市	兵庫県	44	1.4%
18	高砂市	兵庫県	30	0.9%
19	堺市	大阪府	28	0.9%
20	小野市	兵庫県	27	0.8%
-	その他		1,093	34.4%
-	合計		3,181	100.0%

【来訪者数・構成比】

順位	発地市区町村	発地都道府県	来訪者数	構成比
1	姫路市	兵庫県	286	10.1%
2	豊岡市	兵庫県	259	9.2%
3	神戸市	兵庫県	229	8.1%
4	丹波市	兵庫県	126	4.5%
5	大阪市	大阪府	121	4.3%
6	養父市	兵庫県	107	3.8%
7	福知山市	京都府	102	3.6%
8	加古川市	兵庫県	75	2.7%
9	明石市	兵庫県	66	2.4%
10	西宮市	兵庫県	51	1.8%
11	京都市	京都府	45	1.6%
12	尼崎市	兵庫県	44	1.6%
13	神崎郡神河町	兵庫県	40	1.4%
14	美方郡香美町	兵庫県	38	1.3%
15	伊丹市	兵庫県	34	1.2%
16	高砂市	兵庫県	33	1.2%
17	たつの市	兵庫県	31	1.1%
18	堺市	大阪府	29	1.0%
19	東大阪市	大阪府	25	0.9%
20	宝塚市	兵庫県	25	0.9%
-	その他		1,055	37.4%
-	合計		2,819	100.0%

<変化の要因(仮説)>

- ・ 豊岡市の観光客は高速ができたため、下道を走らずに、朝来市に立ち寄りせず「そのまま通過してる」可能性がある。
- ・ その影響で、立ち寄り利用も減少か。
- ・ 神戸市からの観光客も、目的地まで直行しているのではないか？
- ・ 絶対数が減少してる中、姫路市からの来訪は上昇傾向
→日本遺産の関係か？銀の馬車道？

【旅程分析】

<比較における注視ポイント>

- ・ 男性／10-34歳で2017年で行動に変化が出ている。
- ※2017年では域内1泊の比率が高く、域外は低くなり、宿泊地不明はゼロ（秘匿処理対象）。域内2泊は大幅に高くなった。
- ・ 女性／35-49歳で2017年の域内1泊の比率が低くなっている。（2015年＝22.4%→2017年＝12.3%【マイナス10.1%】）
- ・ 男女とも、3泊以上の比率が2017年で変動している。男性／50歳以上で上昇、女性／50歳以上は上昇

【性年齢層別構成比】

NO	旅程	来訪者数	男性			女性		
			10～34歳	35～49歳	50歳以上	10～34歳	35～49歳	50歳以上
-	全体	3,181	19.1%	13.7%	17.9%	15.5%	15.7%	18.2%
1	日帰り	1,829	18.7%	13.5%	17.5%	16.2%	15.7%	18.4%
2	域内1泊	112	9.3%	15.6%	20.7%	19.3%	22.4%	12.7%
3	域外1泊	603	19.2%	11.9%	18.9%	15.8%	14.8%	19.4%
4	1泊宿泊地不明	118	21.2%	****	21.7%	****	17.7%	21.8%
5	域内2泊	32	****	****	****	****	****	****
6	域外2泊	219	17.2%	14.8%	15.7%	10.2%	16.1%	26.0%
7	域内外各1泊	22	****	****	****	****	****	****
8	2泊宿泊地不明	32	****	****	****	****	****	****
9	3泊以上	214	25.8%	17.2%	15.9%	20.5%	12.7%	7.9%

【性年齢層別構成比】

NO	旅程	来訪者数	男性			女性		
			10～34歳	35～49歳	50歳以上	10～34歳	35～49歳	50歳以上
-	全体	2,819	16.7%	16.4%	20.7%	14.3%	12.8%	19.0%
1	日帰り	1,833	17.4%	16.4%	20.6%	13.7%	12.8%	19.1%
2	域内1泊	144	16.2%	17.3%	17.4%	21.9%	12.3%	14.8%
3	域外1泊	412	12.4%	16.4%	22.1%	13.3%	13.6%	22.2%
4	1泊宿泊地不明	17	****	****	****	****	****	****
5	域内2泊	38	26.4%	****	****	****	****	****
6	域外2泊	150	15.9%	15.1%	21.5%	16.8%	11.7%	19.0%
7	域内外各1泊	23	****	****	****	****	****	****
8	2泊宿泊地不明	13	****	****	****	****	****	****
9	3泊以上	188	18.6%	17.3%	23.0%	14.2%	12.0%	14.8%

<変化の要因（仮説）>

- ・ 雲海が発生する時期ではないが、例えば深夜にエリアに入り、駐車場での待機（仮眠など）でも扱いとしては「域内宿泊」となるので若い世代については「流入時間」との相関関係も確認する必要がある。
- ※一方で、竹田エリアでは、新しく宿泊施設が増えてきている
- ※23ページ～の「時間別流入出分析」を確認すると早朝の流入が全体で増えているので、この若年層とリンクする可能性がある

【宿泊地分析】

<比較における注視ポイント>

- ・全体として宿泊人数は減少 マイナス12.2% (2015年=1901人、2017年1669人)
- ・その他2015年と2017年とで大きな変化はない。

※市区町村の微細な入れ替えは発生しているが、宿泊人数は誤差の範囲と考えられる。
近隣エリアに変化がある(養父市・新温泉町の上昇、豊岡市・香美町の減少)

【宿泊人泊数・構成比】

順位	市区町村	都道府県	宿泊人泊数	構成比
1	朝来市	兵庫県	373	19.6%
2	豊岡市	兵庫県	345	18.2%
3	姫路市	兵庫県	117	6.2%
4	神戸市	兵庫県	87	4.6%
5	美方郡香美町	兵庫県	67	3.5%
6	養父市	兵庫県	66	3.5%
7	美方郡新温泉町	兵庫県	43	2.3%
8	大阪市	大阪府	40	2.1%
9	京丹後市	京都府	40	2.1%
10	京都市	京都府	34	1.8%
11	宮津市	京都府	31	1.6%
12	加古川市	兵庫県	30	1.6%
13	福知山市	京都府	28	1.5%
14	米子市	鳥取県	27	1.4%
15	丹波市	兵庫県	25	1.3%
16	岡山市	岡山県	21	1.1%
17	明石市	兵庫県	18	1.0%
18	綾部市	京都府	18	0.9%
19	西宮市	兵庫県	17	0.9%
20	松阪市	三重県	14	0.7%
-	その他		460	24.2%
-	合計		1,901	100.0%

【宿泊人泊数・構成比】

順位	市区町村	都道府県	宿泊人泊数	構成比
1	朝来市	兵庫県	400	24.0%
2	豊岡市	兵庫県	279	16.7%
3	養父市	兵庫県	93	5.6%
4	姫路市	兵庫県	76	4.6%
5	美方郡新温泉町	兵庫県	69	4.1%
6	神戸市	兵庫県	60	3.6%
7	美方郡香美町	兵庫県	52	3.1%
8	福知山市	京都府	42	2.5%
9	京丹後市	京都府	29	1.7%
10	丹波市	兵庫県	27	1.6%
11	大阪市	大阪府	22	1.3%
12	京都市	京都府	18	1.1%
13	宮津市	京都府	18	1.1%
14	神崎郡神河町	兵庫県	15	0.9%
15	鳥取市	鳥取県	14	0.8%
16	明石市	兵庫県	13	0.8%
17	宍粟市	兵庫県	12	0.7%
18	松江市	島根県	12	0.7%
19	加古川市	兵庫県	11	0.7%
20				
-	その他		406	24.3%
-	合計		1,669	100.0%

<変化の要因(仮説)>

- ・近隣だと、豊岡市・香美町は減少しているが、養父市・新温泉町が上位にランクインしている。
 - 最近話題が多い養父市だが、宿泊施設のイメージがわからない(ハチ高原は合宿中心?)
 - 新温泉町 湯村温泉の価格帯の変化
 - 養父市・新温泉町の場合、日高神鍋ICの利用は少ない
 - 一方、香美町(香住)・豊岡市の場合、日高神鍋ICを利用している

<比較における注視ポイント>

- ・ 朝来市／男性女性共に／50歳以上が上昇
- ・ 豊岡市／男性全体の比率に変化がある。（2017年では、10-34歳は低くなり、50歳は高くなっている）
- ・ 養父市は全体的に男性が上昇し、新温泉町は女性（10-34歳以外）が上昇している
- ・ 全体ランキングの宿泊市区町村の顔ぶれは微妙に変化しているが、ゼロ（秘匿処理対象）となっている。

【性年齢層別 宿泊人泊数・構成比】

順位	宿泊市区町村	都道府県	宿泊人泊数	男性			女性		
				10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体		1,901	21.6%	15.1%	17.4%	15.1%	15.3%	15.5%
1	朝来市	兵庫県	373	27.9%	13.4%	13.2%	26.4%	13.3%	5.8%
2	豊岡市	兵庫県	345	26.9%	13.2%	11.7%	12.5%	14.7%	21.1%
3	姫路市	兵庫県	117	****	15.5%	23.2%	****	12.3%	28.3%
4	神戸市	兵庫県	87	12.8%	****	20.6%	18.5%	31.7%	****
5	美方郡香美町	兵庫県	67	27.1%	****	****	15.4%	15.6%	****
6	養父市	兵庫県	66	****	****	****	27.3%	42.4%	****
7	美方郡新温泉町	兵庫県	43	25.0%	****	28.0%	****	****	****
8	大阪市	大阪府	40	****	****	****	****	****	39.1%
9	京丹後市	京都府	40	****	****	****	****	****	36.3%
10	京都市	京都府	34	****	****	****	****	53.0%	****
11	宮津市	京都府	31	****	****	****	****	****	43.5%
12	加古川市	兵庫県	30	****	****	****	****	****	****
13	福知山市	京都府	28	****	****	****	****	****	41.9%
14	米子市	鳥取県	27	44.8%	****	****	****	****	****
15	丹波市	兵庫県	25	****	****	****	****	****	****
16	岡山市	岡山県	21	****	****	****	****	****	****
17	明石市	兵庫県	18	****	****	****	****	****	****
18	綾部市	京都府	18	76.9%	****	****	****	****	****
19	西宮市	兵庫県	17	****	****	****	****	****	****
20	松阪市	三重県	14	****	****	****	****	****	****
-	その他		460	15.2%	19.8%	25.2%	13.4%	10.6%	15.9%

【性年齢層別 宿泊人泊数・構成比】

順位	宿泊市区町村	都道府県	宿泊人泊数	男性			女性		
				10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体		1,669	17.3%	16.5%	21.4%	15.0%	12.6%	17.1%
1	朝来市	兵庫県	400	22.5%	14.7%	17.1%	20.6%	10.8%	14.2%
2	豊岡市	兵庫県	278	14.2%	13.8%	18.4%	15.6%	16.6%	21.4%
3	養父市	兵庫県	93	24.7%	11.3%	12.8%	21.1%	12.9%	17.1%
4	姫路市	兵庫県	76	16.1%	17.2%	25.0%	****	****	16.9%
5	美方郡新温泉町	兵庫県	69	****	****	20.6%	****	17.8%	25.8%
6	神戸市	兵庫県	60	****	****	22.5%	17.7%	****	****
7	美方郡香美町	兵庫県	52	****	****	****	19.8%	23.7%	****
8	福知山市	京都府	42	****	****	****	****	****	****
9	京丹後市	京都府	29	****	****	****	****	****	****
10	丹波市	兵庫県	27	****	****	****	****	****	****
11	大阪市	大阪府	22	****	****	****	****	****	****
12	京都市	京都府	18	****	****	****	****	****	****
13	宮津市	京都府	18	****	****	****	****	****	****
14	神崎郡神河町	兵庫県	15	****	****	****	****	****	****
15	鳥取市	鳥取県	14	****	****	****	****	****	****
16	明石市	兵庫県	13	****	****	****	****	****	****
17	宍粟市	兵庫県	12	****	****	****	****	****	****
18	松江市	島根県	12	****	****	****	****	****	****
19	加古川市	兵庫県	11	****	****	****	****	****	****
-	その他		406	16.2%	21.9%	30.1%	7.2%	9.5%	15.0%

<変化の要因（仮説）>

- ・ 朝来市50歳以上の宿泊が上昇傾向（竹田エリアの宿泊施設の増加か？）
- ・ 2015年、特に若年層の動きが活発なので、google社のCMの影響が少なからずあると考えられる。
（※実際にこの時期、若者が車でけっこう来ていたという現場の声もあり。城跡まで車で登れないのか？といったクレームも）

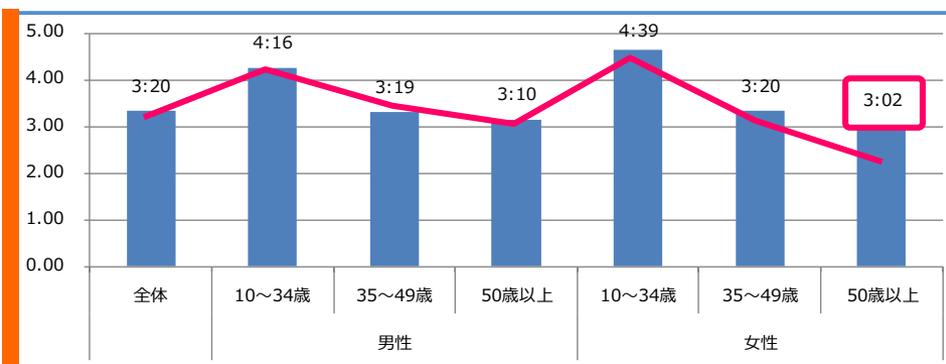
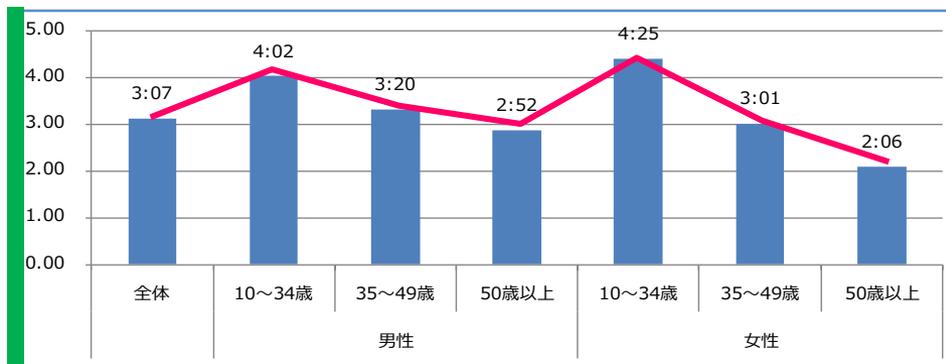
【滞在時間分析】

<比較における注視ポイント>

- ・ 時間に多少の差異はあるものの、全体傾向としては大きな変化は見られない。（折れ線の波形で比較）
- ・ 唯一、女性／50歳以上の滞在時間が2017年では増加している。（56分）

【性年齢層別 滞在時間】

【性年齢層別 滞在時間】



<変化の要因（仮説）>

- ・ 全体的に10-34歳の滞在時間上昇 全体的に女性の滞在期間が上昇（ただし微増）
- 女性をターゲットにした滞在時間が伸びそうなイベント等がおこなわれていたか？

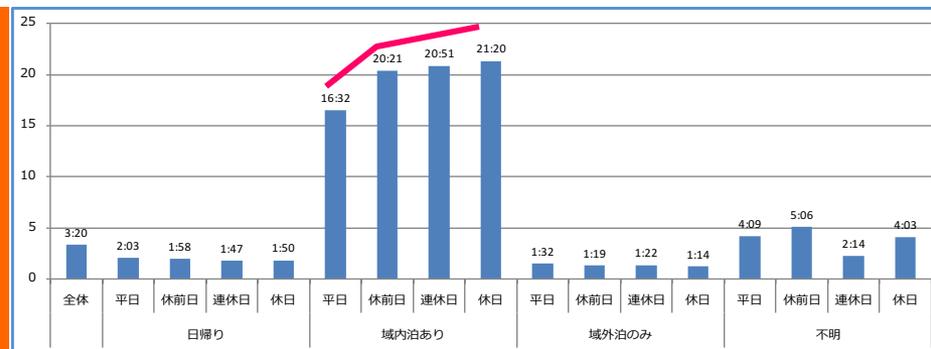
<比較における注視ポイント>

- ・ 時間に多少の差異はあるものの、日帰り、域外泊のみ、不明においては大きな変化は見られない。
- ・ 域内泊ありについては、2015年と2017年では、平日と連休日が逆転している。（折れ線の波形で比較）

【旅程・カレンダー別 滞在時間】



【旅程・カレンダー別 滞在時間】



<変化の要因（仮説）>

- ・ 同時期におけるカレンダーの変化などで、このような傾向が出る可能性がある。
- ただ、一概には言えないものの、2015年と比較すると2017年のほうが休前日カレンダーが悪い印象。
- とすると、「休前日」などに特別なイベント開催など、滞在時間がのびる工夫をしたか？
- 平日滞在時間の減少

<比較における注視ポイント>

- ・道の駅まほろば（262人→350人）と生野銀山（101人→126人）は来訪者数増加している
- ・道の駅まほろばにおいては男性／女性とも、ほぼ全年齢にわたり来訪者の人数が2017年で増加している。

【性年齢層別 来訪者数】

【性年齢層別 来訪者数】

順位	観光エリア名	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
1	道の駅まほろば	262	46	40	54	31	30	62
2	竹田城跡	197	****	22	47	****	29	62
3	道の駅フレッシュあさご	173	34	19	36	41	28	14
4	城崎温泉	157	31	22	21	25	26	32
5	生野銀山	101	****	13	15	36	****	24
6	道の駅あさご（村おこしセンター）	48	****	11	****	17	****	****
7	立雲峡	15	****	****	****	****	****	****
8								
9								
10								

順位	観光エリア名	来訪者数	男性			女性		
			10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
1	道の駅まほろば	350	30	51	88	51	50	81
2	竹田城跡	152	19	16	32	24	17	44
3	城崎温泉	147	25	20	26	27	21	28
4	道の駅フレッシュあさご	147	17	22	26	27	25	30
5	生野銀山	126	****	24	28	****	24	30
6	道の駅あさご（村おこしセンター）	43	****	****	****	****	****	****
7	立雲峡	20	****	****	****	****	****	****
8								
9								
10								

<変化の要因（仮説）>

- ・「道の駅まほろば」の認知度UP、TVなどでの露出、その他PRなどにより、このような変化になる場合がある。
- 平成26年（2014年）に、『地方創生拠点／重点道の駅』に選ばれおり、認知の浸透で2017年に増加している可能性がある。
 - ・日本遺産の関連で、生野銀山PR強化や仕掛け（ギンザンボーイズ）

<比較における注視ポイント>

- ・全体の平均滞在時間は減少【マイナス18分】
- ・道の駅あさごの平均滞在時間が2017年では短くなっている。【マイナス1時間7分】
- ・そのうち、男性／35-49歳の滞在時間が、2017年では特に短くなっている。【マイナス2時間19分】
- ・女性／50歳以上の全体的な滞在時間が2017年では短くなっている。【マイナス33分】
- ・一方、城崎温泉については女性／35-49歳の滞在時間は2017年で長くなっている。【プラス2時間36分】

【性年齢層別 滞在時間】

【性年齢層別 滞在時間】

順位	観光エリア名	来訪者数	平均滞在時間	男性			女性		
				10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	-	2:10	2:31	2:18	1:51	1:52	2:08	2:21
1	城崎温泉	157	7:50	9:24	6:07	9:51	7:23	6:36	9:53
2	道の駅あさご（村おこしセンター）	48	1:48	0:23	3:01	0:39	0:35		0:30
3	立雲峡	15	1:30	1:00	2:50		0:15	0:45	
4	生野銀山	101	1:10	1:30	1:11	1:01	1:27	1:09	1:05
5	道の駅まほろば	262	1:05	1:05	1:51	0:47	0:36	0:36	0:35
6	竹田城跡	197	0:58	0:53	0:56	1:01	1:00	1:01	0:56
7	道の駅フレッシュあさご	173	0:52	0:38	0:53	0:39	0:38	1:24	0:33
8									
9									
10									

順位	観光エリア名	来訪者数	平均滞在時間	男性			女性		
				10~34歳	35~49歳	50歳以上	10~34歳	35~49歳	50歳以上
-	全体	-	1:52	2:35	1:42	1:46	2:15	2:07	1:48
1	城崎温泉	147	7:56	7:48	5:48	8:17	7:40	9:12	8:48
2	生野銀山	126	1:18	1:04	1:26	1:19	1:07	1:13	1:14
3	竹田城跡	152	1:04	0:48	0:54	1:02	1:45	1:01	1:09
4	立雲峡	20	0:55	0:53	0:52	1:01	0:15	1:21	0:40
5	道の駅まほろば	350	0:51	1:25	1:04	0:50	0:44	0:47	0:38
6	道の駅あさご（村おこしセンター）	43	0:41	0:43	0:42	0:46	0:53	0:36	0:27
7	道の駅フレッシュあさご	147	0:40	0:38	0:50	0:40	0:29	0:39	0:34
8									
9									
10									

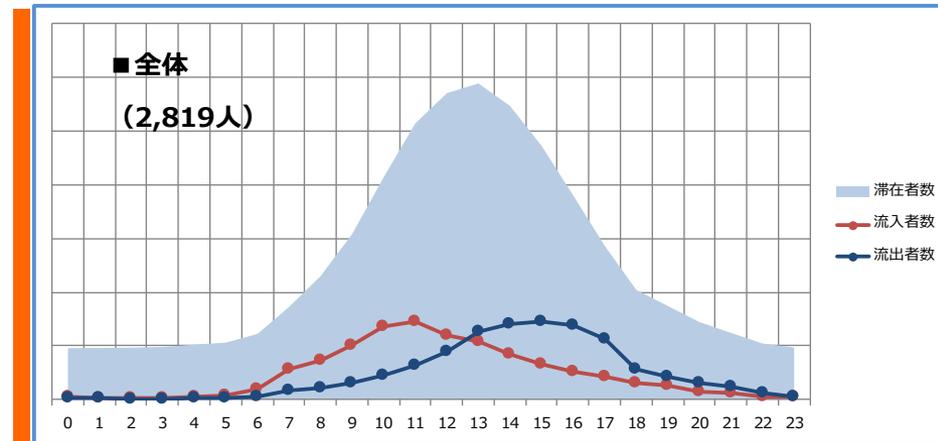
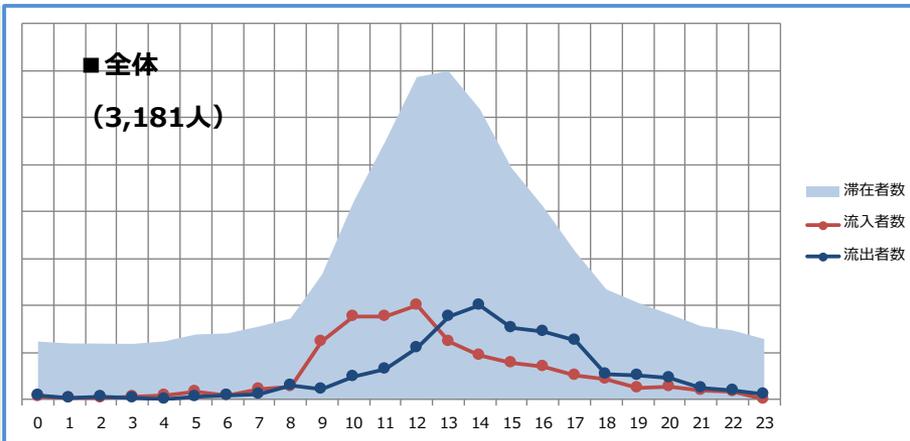
<変化の要因（仮説）>

- ・城崎エリアは温泉街の為、宿泊している可能性が高く滞在は伸びる傾向
- ・「道の駅あさご」に関しては、2015年の男性／35-49歳の3時間はなんらか特殊事情があった可能性がある。

【時間帯別流入出分析】

<比較における注視ポイント>

- ・ 全体の傾向として、特筆すべき大きな変化は見られない。
- ※強いて言えば、2017年は流入／流出とも折れ線グラフがなだらかなため、2015年に比較すると各時間帯において人数差が激しくないと言える。
(2015年 = 一気に増加or減少、2017年 = 緩やかに増加or減少)



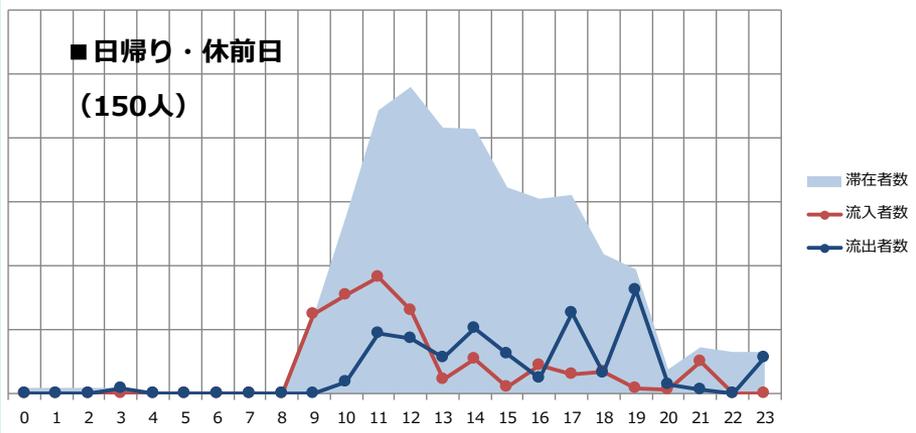
<変化の要因 (仮説) >

- ・ 特にナシ
- ※強いて言えば、2017年は入りの時間が早い。早朝に雲海を見に来ている可能性がある。

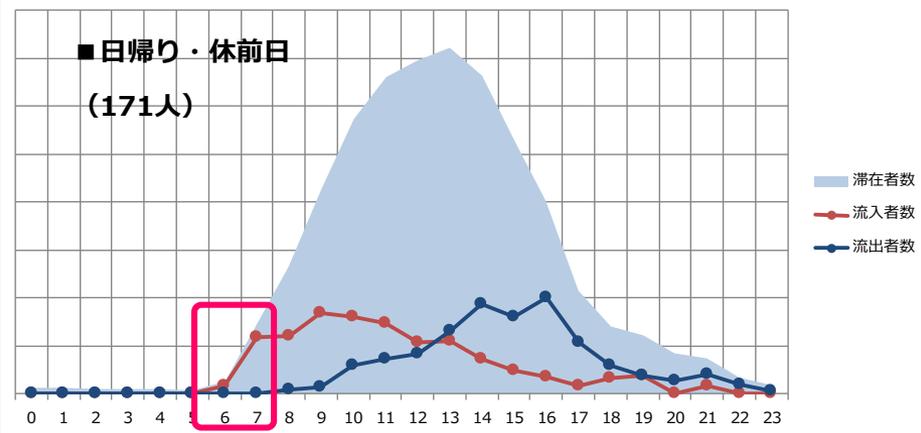
<比較における注視ポイント>

- ・全体の波形が2015年はバラツキがある。
- ※動態調査に時間帯別流入出分析の波形は、2017年のような形になることが多い。
- ・流入の開始が2017年では6時からと早くなっている。（2015年は8時から）

■ 日帰り・休前日
(150人)



■ 日帰り・休前日
(171人)

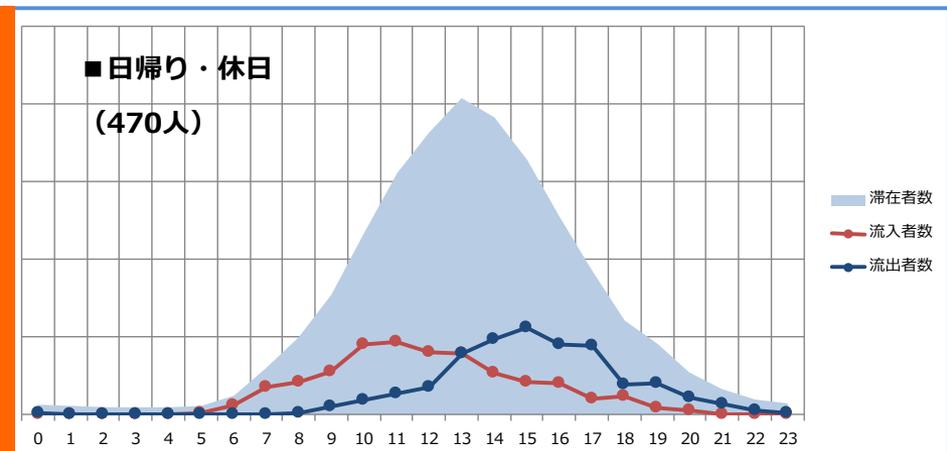
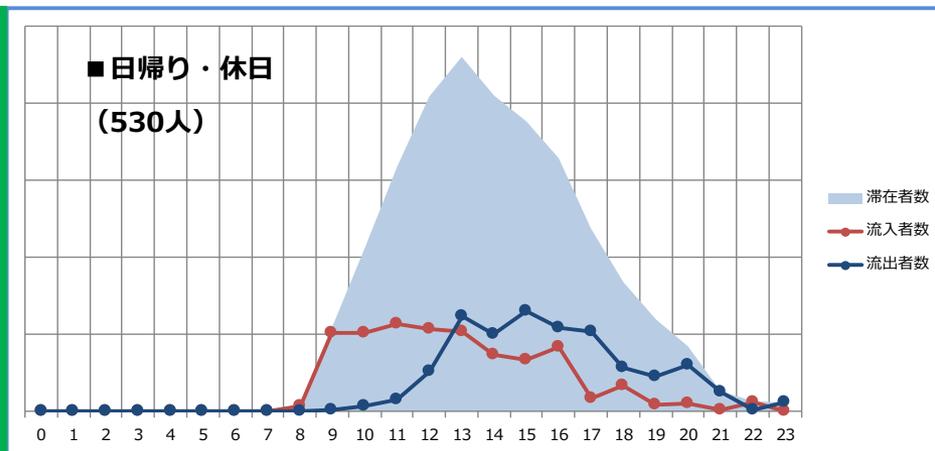


<変化の要因 (仮説) >

- ・特にナシ
- ※強いて言えば、2017年は入りの時間が早い。日帰り早朝に雲海を見に来ている可能性がある。

<比較における注視ポイント>

- ・ 流入のピーク時間はいずれも11時であるが、2017年では緩やかに上昇している。（2015年は8時から一気に上昇する）
- ・ 流出のピーク時間もいずれも15時であるが、2017年では緩やかに上昇している。（2015年が12時13時の差が激しい）
- ・ 流入の開始が2017年では5時からと早くなっている。（2015年は8時から）

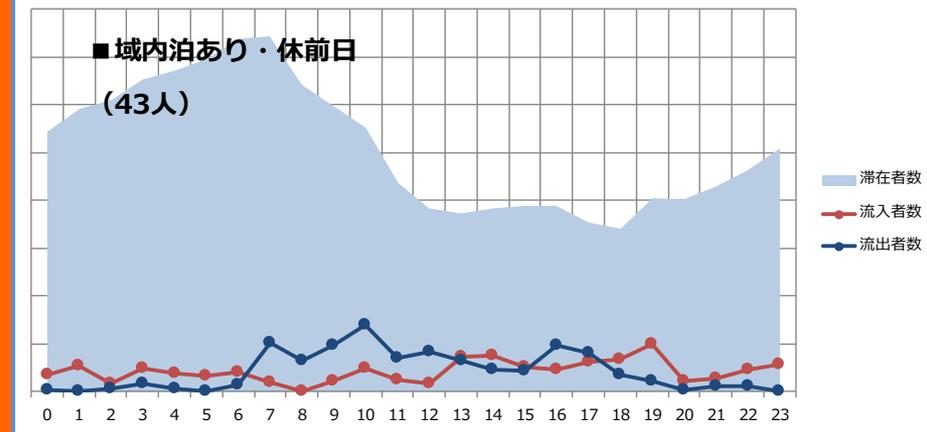
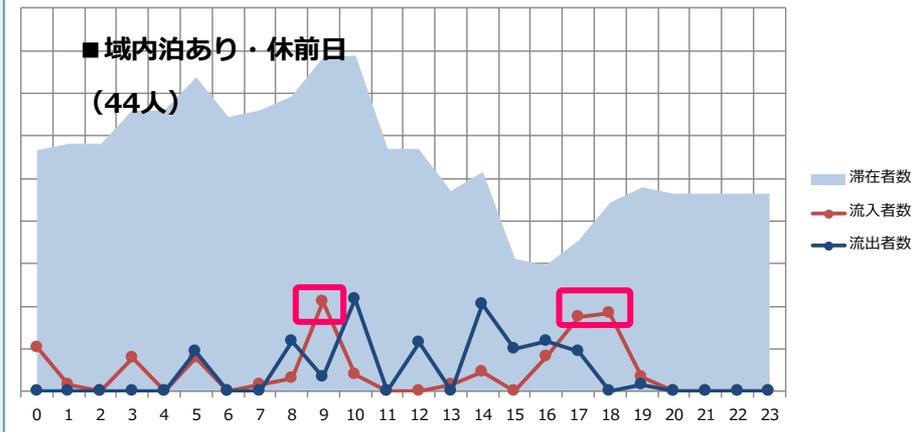


<変化の要因（仮説）>

- ・ 特にナシ
- ※強いて言えば、2017年は入りの時間が早い。早朝に雲海を見に来ている可能性がある。

<比較における注視ポイント>

- ・ 域内泊／休前日においても、全体の波形が2015年はバラツキがある。
- ※動態調査に時間帯別流入出分析の波形は、2017年のような形になることが多い。
- ・ 特に2015年では9時に流入のピークがあるほか、18時19時にもピーク近くまで流入している。
- ※流出についても時間帯により増加（上昇）、減少（下降）が激しい。
- ◆こちらはサンプル数が少ない為、一定の結果が提示できない

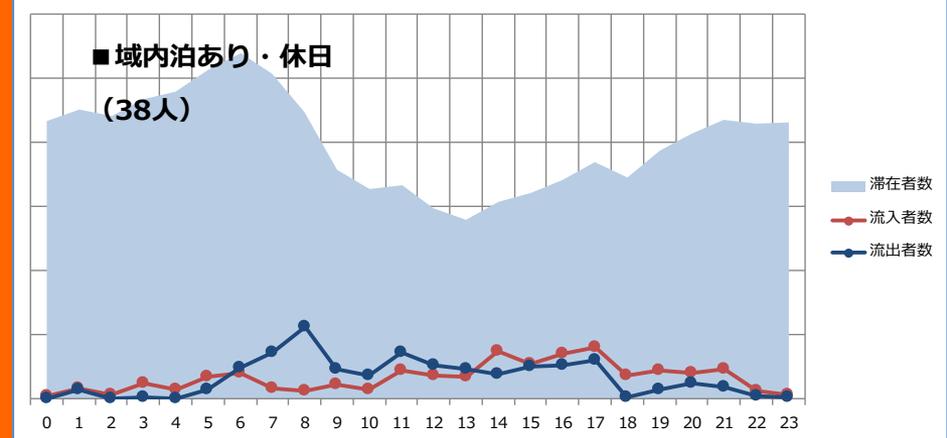
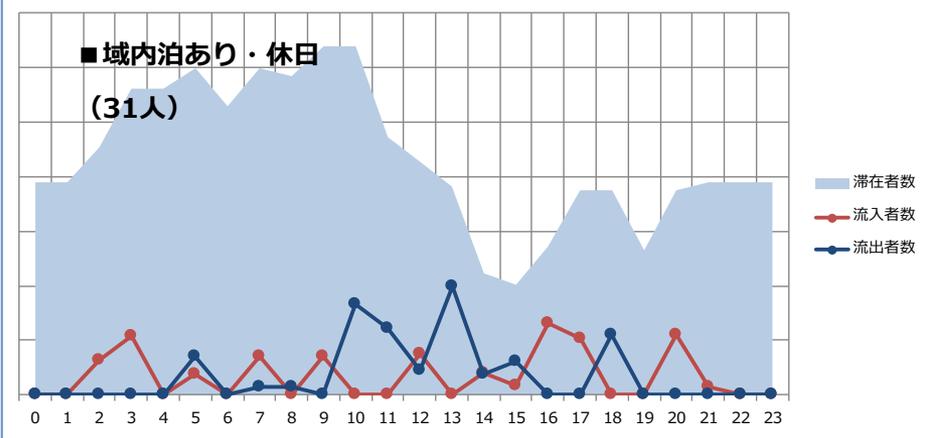


<変化の要因（仮説）>

- ・ 早朝の流入は、おそらく車中泊と考えられる。コンビニや駐車場、道の駅など。
- ※22 Pの「男性3時間」も同様の可能性がある。

<比較における注視ポイント>

- ・ 域内泊／休日においても、全体の波形が2015年はバラツキがある。
- ※ 動態調査に時間帯別流入出分析の波形は、2017年のような形になることが多い。
- ・ 特に2015年では16時に流入のピークがあるほか、3時20時にもピーク近くまで流入している。（5時7時9時も同様）
- ※ 流出についても時間帯により増加（上昇）、減少（下降）が激しい。
- ◆ こちらはサンプル数が少ない為、一定の結果が提示できない

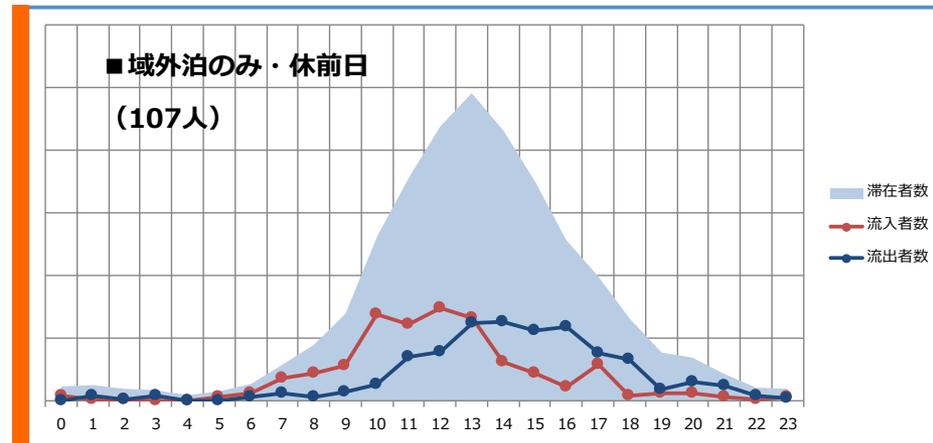
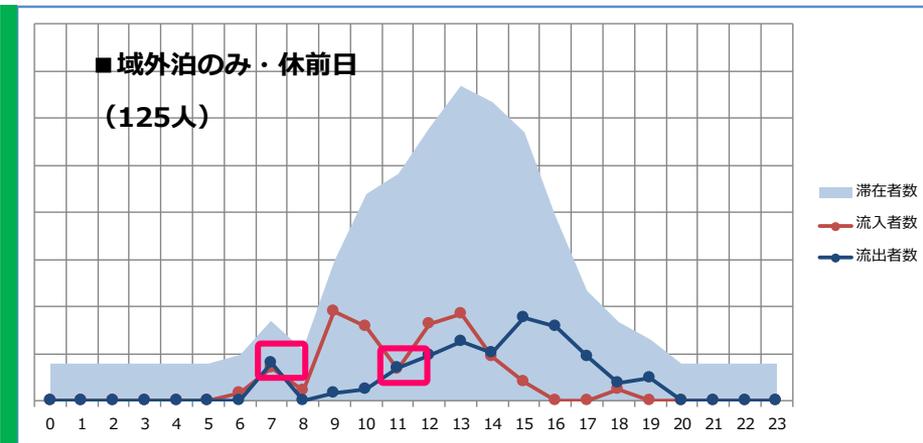


<変化の要因（仮説）>

- ・ 仮説だが、2015年のように、ノコギリ型になるような場合、「10-34歳の滞在エリアでの行動パターンの多様化」が考えられる。
- カスタマーが一律のアクションをしないため、このような波形になることも。
- 例えば、深夜早朝の場合は遠方からわざわざ雲海だけを見てすぐに域外へ

<比較における注視ポイント>

- ・全体傾向としては、「日帰り、域内泊」に比べ、域外泊になると流入出の増減が穏やかになっている。
- ・しかし2015年では9時に流入のピークがあるが、11時で一度下降している。
- ・また、2015年では流出も7時に一度上昇している。

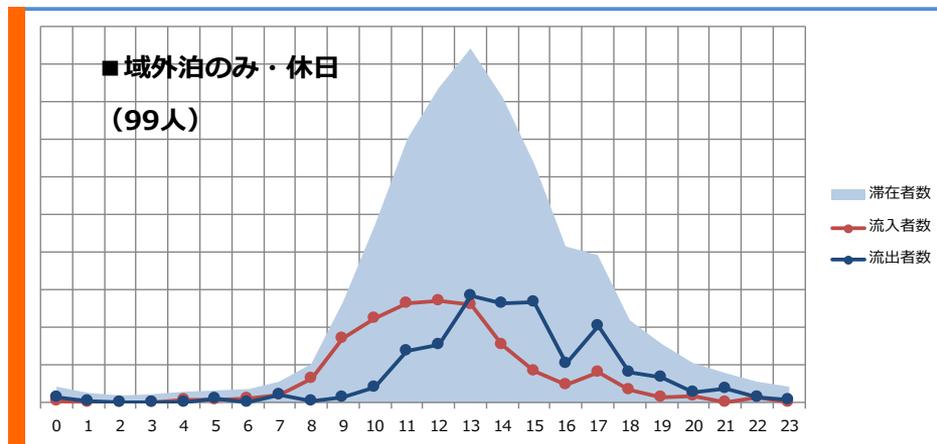
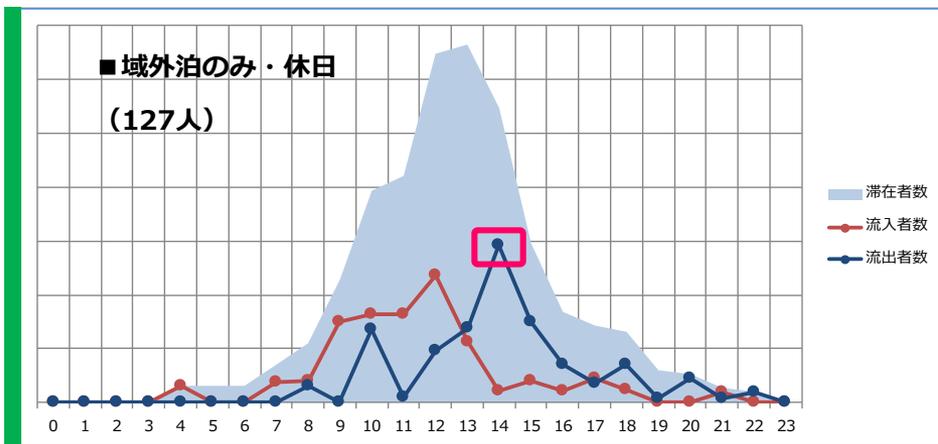


<変化の要因 (仮説) >

- ・特にナシ。

<比較における注視ポイント>

- ・ 域外泊／休日においても、全体の波形が2015年はバラツキがある。
- ※ 動態調査に時間帯別流入出分析の波形は、2017年のような形になることが多い。
- ・ 特に2015年では12時に流入のピークがあるほか、9時-11時にもピーク近くまで流入している。
- ※ 流出についても時間帯により増加（上昇）、減少（下降）が激しい。



<変化の要因（仮説）>

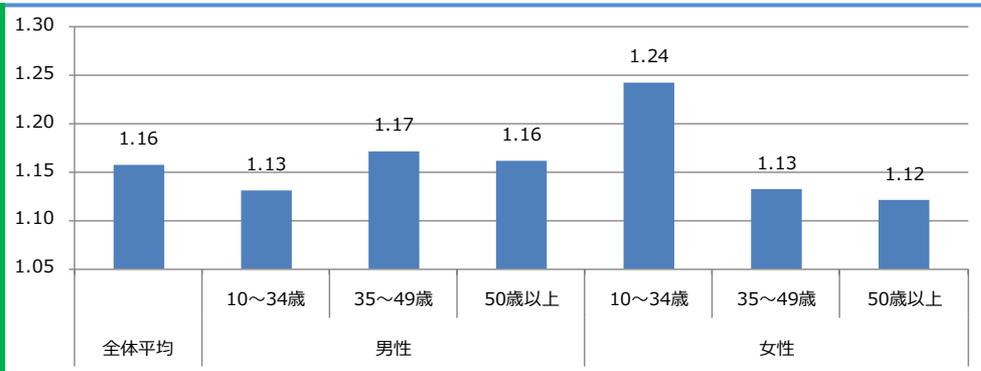
- ・ 2015年の仮説だが、例えば団体旅行などの場合は、このように時間で突出して急に増えるような場合がある。
- 時間的に、バスツアーなどが考えられる。

【周遊分析】

<比較における注視ポイント>

- ・ 男性／10-34歳、女性／35-49歳と50歳以上において周遊箇所数が2017年で上昇している。
(全体だと、1.16カ所→1.2カ所に伸びてる)

【性年齢層別 平均周遊箇所数】

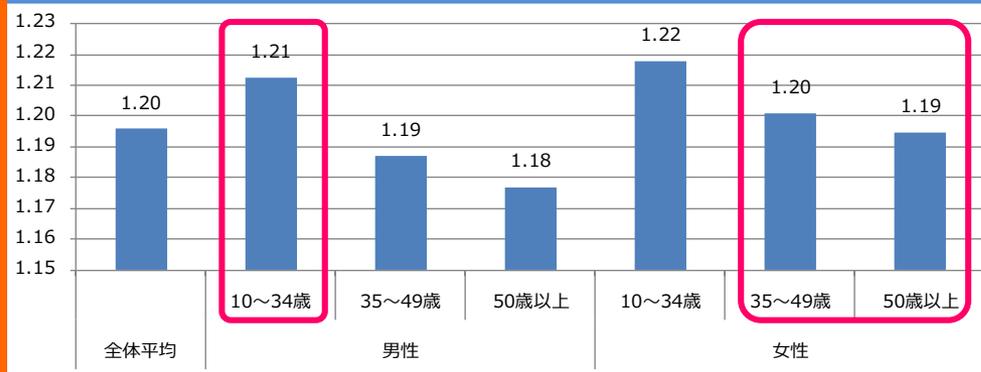


<変化の要因 (仮説) >

- ・ 2017年で、10-34歳男性（35歳～の女性も）の滞在箇所が伸びているのは、城崎温泉の可能性が有る。
※2017年の周遊は、ほぼ城崎温泉と朝来市のどこかのエリア、という実感値より。

よって城崎温泉での朝来市着地型PRを実施すると周遊は増える傾向になる。

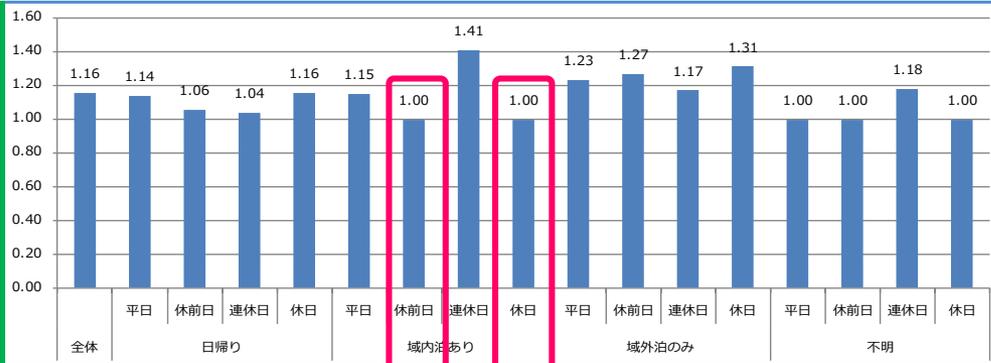
【性年齢層別 平均周遊箇所数】



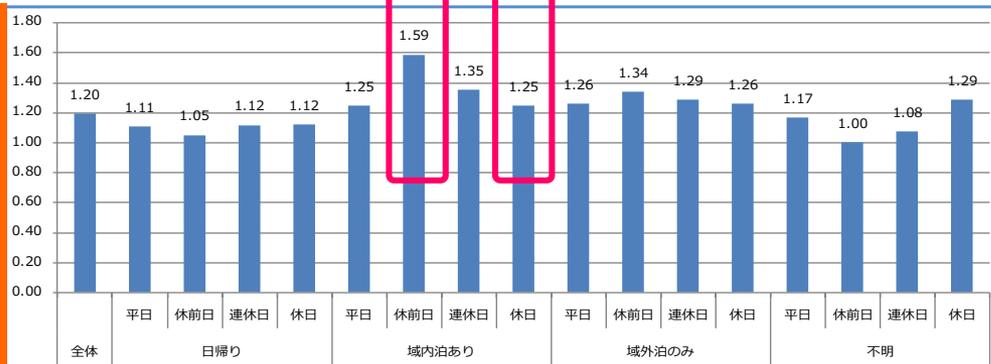
<比較における注視ポイント>

- ・ 域内泊／休前日と休日において、2017年で周遊箇所数が上昇している。
(2015年から順にプラス0.59か所、0.25か所)

【旅程別 平均周遊箇所数】



【旅程別 平均周遊箇所数】



<変化の要因 (仮説) >

- ・ 仮説だが、
旅程にかかわらず、休日や休前日で
「各スポットでのイベントの強化」
「各スポットとの連携」
(例えばスタンプラリーなど、相互乗り入れの促進)
などが発生すると、周遊箇所が増えることがある。
→そのような要因はなかったか？
何かしら周遊促進の施策を実施した可能性があり、
成功してるのではないか？

<比較における注視ポイント>

- ・2017年では、4位以下がゼロ（秘匿処理対象）となっている。
- ※2015年は上位だった、竹田城跡↔道の駅まほろばはゼロ（秘匿処理対象）

順位	周遊コース	来訪者数	構成比	順位	周遊コース	来訪者数	構成比
1	道の駅まほろば ⇄ 城崎温泉	27	21.5%	1	道の駅まほろば ⇄ 城崎温泉	30	20.6%
2	竹田城跡 ⇄ 道の駅まほろば	19	15.2%	2	道の駅フレッシュあさご ⇄ 城崎温泉	21	14.6%
3	竹田城跡 ⇄ 城崎温泉	19	15.1%	3	竹田城跡 ⇄ 城崎温泉	18	12.2%
4	道の駅フレッシュあさご ⇄ 城崎温泉	18	14.8%	4			
5	道の駅まほろば ⇄ 道の駅あさご(村おこしセンター)	10	8.4%	5			
6				6			
7				7			
8				8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
13				13			
14				14			
15				15			
16				16			
17				17			

<変化の要因（仮説）>

道の駅×城崎温泉のみが上昇

→道の駅まほろばの知名度がアップした。また、2017年にリニューアルをしている。

イベントも豊富で、高速道路が延長したことで、「行き帰りの立ち寄り目的利用」に、距離的にちょうどよくなった可能性がある。

朝来市内における地域内周遊は顕著に減少している

2018年度 ご提案

①滞在時間を延ばすため「食」をからめた打ち手の強化

→できる限り多くの店舗で、スイーツやご当地グルメなど売れるグルメメニューの開発とPR

②「竹田城下町」「生野鉱山町」の街並みの活性化

→街歩きによる滞在時間を延ばす他、雲海の帰りに立ち寄れるモーニングスポットなどの整備

③現状増えている傾向にある50歳以上の男女をターゲットにした継続的なプロモーション強化

一方で、減少傾向にある10-34歳に対する打ち手や戦略も必要

④日高神鍋ICの影響のない、養父市や新温泉町・香美町（村岡・おじろ）との連携

→行き帰りの立ち寄りとしてのアプローチ

⑤竹田城跡のマンネリ化に歯止め(あきられ防止)と、今注目されつつある生野銀山、新たなお宝資源になりそうな神子畑選鉱場など、地域資源を観光資源に変化させ、しっかり連携させる打ち手を考える

⑥朝来市内での着地型体験の開発と販売の強化

→OTAを活用した遊び体験の販売(滞在時間を延ばす)

⑦日本遺産をきっかけに朝来市に行くことが目的になるような観光戦略と共に、姫路城や城崎温泉など、近隣観光地エリアからの立ち寄り目的になるような戦略を立てることも必要(現在減少傾向)